

イメージが創った観光地清里高原

著者	佐々木 博
雑誌名	筑波大学人文地理学研究
号	22
ページ	27-57
発行年	1998-03
その他のタイトル	Images Have Made Kiyosato Highland into a Tourist Resort in Central Japan
URL	http://hdl.handle.net/2241/00122798

イメージが創った観光地清里高原

佐々木 博

- | | |
|----------------------|--------------------|
| I はじめ | III-2 宿泊施設 |
| II 清里高原形成史 | 民宿 ペンション 学校・区市寮 |
| II-1 開拓入植期 | III-3 観光対象 |
| II-2 酪農期 | 美しい自然 人工施設物（駅前商店街・ |
| II-3 観光化の始まりと民宿期 | 清里寮・萌木の村・博物館・美術館・ |
| II-4 ペンションによる清里高原ブーム | 丘の公園）イベント |
| III 観光地清里高原の構成要素 | IV 清里高原のイメージ |
| III-1 観光客 | V おわり |

キーワード：イメージ・牧場民宿・ペンション・メルヒェンチック

I はじめに

観光地には、温泉・山岳・川・湖沼・森林などの自然的観光資源や、有名な神社仏閣・名所旧蹟の人為的観光資源を求めて人々が集まって来る観光地がほとんどである。これらの観光地は、まさにそこにしかない一回限りの固有の観光資源立地の観光地である。それに対して、観光的自然資源は他にたくさんあるのに、ある地域だけが観光地として形成されていく例が、竹下内閣のふるさと創生1億円事業以来とくに多くなってきた。「観光地は自然発生的に生れるものではなく、人によって創られるものである」との見解を実証するのようなものが多くなり、その全国的なスケールのものとして、浦安市のディズニーランド、長崎県のハウステンボス＝オランダ村などの大型テーマパーク型観光地ができてきた。

本報文は、人為的イメージによって形成されてきた観光地清里高原の、集客イメージ要素の分析によって、一つの観光地の形成を明らかにしようとするものである。

イメージとは非常に幅広い概念で、一冊の本になるほどである。水島（1988）によると、「イメージとは感覚・知覚像でありながら、同時に行動の内化として私たちがその中に入り込んでいるようなものである。そしてそれは命題処理・情報処理に深くかかわっている。われわれはそのイメージによって事象を予期し、行動を準備し、統制する。」

景観を構成する要素としての集落、さらにその構成要素としての建物・橋・道路・水路などの大きさ、色彩、集まり具合などによってイメージは変わる。白石（1989）は工学の立場から、橋の景観設計は次の4つのステップを経ながら実施されていくという（『知覚工学』1989）。

1. 計画設計段階……イメージの形成

2. 形成決定段階……イメージの確立
3. 基本設計段階……イメージの表現
4. 実施設計段階……造形性、景観に対する総合評価

誰が、いつ、どのように設計したものであれ、無数の要素から成り立っている景観〔景域〕はまさに無数の要素の巨大な複合体であり、人間にとっては総合印象として意識され、伝聞・メディアを通じて他者に疑似体験イメージとして伝えられ、空想イメージとして社会に定着してしまう。そこには生体験から得られる香り、うま味、風合い（手触り）、温感、色彩などは捨象されて、ただ清里高原は「大変美しい」とか「ややエグゾティック」とか「どちらかといえば若者向きのメールヒェンの世界」などのファジィ（fuzzy）な表現となってイメージされてゆく。しかし、この社会に定着した仮想イメージこそが、メディアを通して人を動かし、列車・バスを運行させ、メールヒェンティックな商店街を作らせ、美術館・博物館を創立させ、イベントを開催させ、人々を吸引する力と化す。

Ⅱ 清里高原形成史

清里高原とは、八ヶ岳（最高峰赤岳は2,899m）南麓にある火山斜面で、海拔1,900～1,000mほどにわたっている（図1）。行政的には山梨県最北部にある北巨摩郡高根町（人口8,750、1995年）の一部である。1957年に高根町に合併した、旧清里村の領域を広義の清里高原としてもよいが、狭義にはJR小海線をはさんで南北、海拔1,500～1,100mくらいまでの観光化された景域をさす。駅北西1.5km、海拔1,380mにある清泉寮以西は、行政的には大泉村であるが、川俣川東沢以西の八ヶ岳牧場も大泉村域でありながら、イメージとしては清里高原として社会的に定着している。清里地区の人口は2,145人（1995）で、高根町の24.5%を占めている。

地形的には東限は長野県南牧村との境界をなす大門川、西は大泉村領の一部を含めて川俣川東沢までの東西幅2.5km、南限は大門ダムまでの海拔1,500～1,000mまでの八ヶ岳山斜面を清里高原と呼んでいる（写真1）。これもイメージと行政領域とは厳密には一致しないイメージのファジー性であり、観光雑誌やガイドブックでは、清里高原は高原イメージの強い信州の一部として扱われるが如く、「信州イメージ」となっていることが多い。これもイメージのもつファジー性の表象である。

Ⅱ－1 開拓入植期

高根町史によると、念場ヶ原は延喜年間（901～922）に甲斐三官牧の一つである^{かしわさきのまさ}柏前牧が置かれ、朝廷に馬を献上した記録がある。さらに「念場千軒」といわれる大きな集落もあったらしいが、いつの頃からか念場千軒もすたれて、近代には原野に戻っていた。

本格的な入植が始まる1938年以前は、清里高原は「^{ねんばがはら}念場ヶ原山」と呼ばれる周辺11か村の入会林野であった。清里地区の檜山村・浅川村、高根地区の長沢村・村山北割村・提村・村山東割村・箕輪村・箕輪新町村・村山西割村・蔵原村・小池村の11か村である。

大規模な開拓入植は、①県営事業として1938年の小河内ダム建設にともなう水没者28戸62人の入植、②1945年6月の戦争罹災者・疎開者からなる「帰農家」38戸170人による開拓入植、③1945年10



図1 清里高原（5万分の1地図）

月の外地引揚者など100戸の入植の3回であった。

第1回目の入植の5年前、1933年に小海線が小渕沢から清里まで開業し、県有林の天然木伐採が開始された。鉄道建設労働者や林業者のための簡易旅館・雑貨店・運送店など6軒の人家が清里駅前に並んでいた。東京の水源多摩川の上流部に小河内ダムを作ることになり、水没することになった者は、丹波山村26戸、小菅村1戸、奥多摩町1戸、計28戸62人であった。山奥で炭焼きをしていた農民は、肥料の知識も開墾の農具も持っていなかった。東京市は八ヶ岳入植時に山梨県と交したことは、「1戸当り畑2町5反、水田1反2畝を反当4円50銭の小作料で貸与＝3年間は東京市が負担＝25坪の住宅建築費1,000円のうち400円を助成する」。1戸平均50aの耕地が割り当てられ、各自が開拓を始めた。入植後の小作料（畑1円50銭／10a、田4円50銭）は3年間免除され、作物が収穫できるまでの半年間の生活保障として大人1日25銭、子供13銭が支給された。水没補償金は入植前に借金返済に充て、平均3,000円の負債をかかえたまま入植した者が大半を占めていたという（池・木下、1989）。

清里開拓入植者の生活の苦勞は、根津ふじ（1988）の私費出版『女の清里開拓ものがたり』の中に詳細に語られている。

八ヶ岳火山斜面はpH3.0～4.2を示すほどの強酸性で、栽培できるものはソバ・アワ・ヒエ・モロコシなどの雑穀と、ライ麦・バレイショ・大豆・小豆などの自給用作物に限られていた。石灰を撒いて中和しても、バレイショは小石のように小さく、食べ物といえば挽いたライ麦と米を7：3に混ぜたもの、ライ麦にニンジンや大根を細かく刻んで炊いたもの、挽いたトウモロコシでつくった餅、フキやヨモギの若芽と挽いたトウモロコシやライ麦を混ぜてつくった団子などで、栄養失調や過労で倒れる人も多かった。

丹波山村時代からの付き合いの富山の薬売りも清里へ回ってくれ、女たちはお金を使わないように漢方薬をつくった。腹にはセンブリやゲンノショウコ、切り傷にはオオバコ、止血め用にはヨモギを茹でて揉んだ汁が効いた。極貧の生活の中で培われた連帯意識は、やがて八ヶ岳分教場（1940年7月25日落成式）・神社・共同墓地・共同出荷場の建設や道路補修などの公共事業の中に花開いていった。

小河内ダム水没難民が開拓入植した1938年（昭和13）、アメリカ人ポール＝ラッシュ（1897－1979）が聖アンデレ同胞会の夏の修養道場で「キリストの御国を日本に広げるための青年リーダーを清里で訓練したい」として、1936年暮れ頃から山梨県庁と用地交渉に取りかかり、県有地がとりあえず1938年1月から1940年3月末まで、年間使用料60円で貸与された。藤原知事は「開発が始まろうとしている八ヶ岳南麓に、立教大が先べんをつけてくれるなら、これほど結構なことはない」と考えたようである。

念場ヶ原120haに及ぶ県営開墾は1936年8月13日に着手され、清里駅から徒歩で5分ほど南下したところに八ヶ岳開墾事務所が開設され、所長は京都府より、4月に山梨県耕地課に青年農林技師安池興男おきおが着任した。開墾の父とあおがれた人で、秋にポール＝ラッシュも清里キャンプ建設を決定し、清里は2人の「開拓の父」を1938年にもつこととなった。

Ⅱ－２ 酪農期

ポール＝ラッシュは1897年（明治30）、アメリカ・ケンタッキー州ルイビル市で生れ、1918年第1次大戦でフランスへ出征し、1925年 YMCA 再建のために来日、立教大学教授となり、日米開戦で強制送還されるまで、日本の若者を教育した。その間アメリカンフットボールを日本に紹介し、聖路加国際病院の建設募金、日本聖アンデレ同胞会の設立に尽力し、KEEP（Kiyosato Educational Experiment Project 清里教育実験計画）の中心施設となる清泉寮を建設した。1945年 GHQ 将校として再来日、48年清里農村センターを建設して酪農の普及に努め、今日の観光要素の一つ「キープのソフトクリーム」生みの親となっている。清泉寮は立教大学高松孝治教授司祭が1937年秋現地を視察し、「キャンプは清里駅から上っていくが、地番は大泉村に入っている。それなら両方を取って清泉寮としたらどうか」と提案して決まった。

ポールは1946年夏、ジープで清里を訪れ、5年前に泣きながら去った清泉寮と再会した。地元有力者の村長、役場幹部、学校長、警察署長、清里青年学校長などを何回か集め、「Project in village community life」を提案して協力を求めた。「これは北巨摩郡の若者たちに mental・physical・social・spiritual の発展をもたらすもので」と語りかけても、寒村の住民にはどの程度理解できたかは疑問であった。その構想は次のようであった。

- ①北巨摩郡全体をモデル農村コミュニティに発展させる。
- ②新しい農産物を導入する実験農場を造る。
- ③牛・ミルク・バター・チーズの実験酪農計画をスタートさせる。
- ④観光客用休暇施設として、山荘・学生ホステルを建設し、道路を改修して村を結ぶバスを運行する。
- ⑤地域教育向上のため、幼稚園から職業学校までを整備する。
- ⑥地域文化向上のため、公共図書館を設け、村民歌謡祭を奨励し、毎夏に著名な交響楽団のコンサート開催。村民ホールを建設し毎週美術展覧会を開き、運動広場を建設し村対抗野球大会を開く。
- ⑦地域医療向上のため30床の八ヶ岳病院を建設する。病院には東京の聖路加国際病院の医療スタッフが常駐する。巡回健康診断を実施する。
- ⑧日本聖公会の教会を創立し、大泉・小泉に礼拝堂を造る。

1946年、敗戦1年後という時期に、50年後の姿に近いことを予見していた卓見は、素晴らしいというほかない。

1947年、斎藤昇山梨県知事の善意により、90万坪（約300ha）がモデル農村コミュニティ用地として県有地が貸与された。範囲は小海線以北、八ヶ岳木馬道以南、川俣溪谷以東、清里駅西側を南北に流れる小川以西である。47年10月14日13時30分、天皇巡幸の特別列車が小淵沢駅へ入った。韭崎駅までの車中で、天皇は吉沢知事に清泉寮で新しい農村づくりが始まっているのを知っているかどうか尋ねられたという。

これらの当時の絶対権力 GHQ のポールとその人脈の追い風で、47年9月聖アンデレ教会建設の地割制が行われ、教会建設労力として清里青年学校の若者が使われた。開拓農家は貧しく、一円の現金

でも欲しい時であった。48年6月教会落成、と清里聖ルカ診療所の起工式にGHQ山梨県軍政官ステットソン中佐、高松宮、吉江勝保知事、聖路加病院長、立教大佐々木順三総長らが参列した。

戦後日本の高冷地開拓は雑穀作りを主眼としていた。ポールには酪農こそ高冷地にふさわしいとの直観から、49年1月、清里の農業改革を目指す清泉寮農場研究委員会を誕生させた。顧問団として県立清里農民道場場長、文部省野辺山実験農場場長、清里帰農者組合組合長が就任した。49年9月、開拓農家は委員会保証によって農林省から50万円の融資を受け、60頭の乳牛を飼育し始めた。八ヶ岳山麓の酪農の原点であったが、良い種牛がいなかったため、うまくいかなかった。

51年夏、ポール第2回目全米横断募金ツアー途上、テネシー州ノックスビルで「山間高冷地の酪農なら、体が丈夫で粗食に耐えるジャージー種がいちばんだ」と教えられ、テネシーの農民はジャージー登録種牛を、アイオワ州の聖公会信徒はジョン＝ディア社製大型トラクターと付属スキ（鋤）などの耕作機一式を清里に贈った。

物ばかりでなく、アメリカで将来の農業の担い手確保のための4Hクラブ運動も導入され、清泉寮農場を4H実習農場に切り替えた。4HとはHead（考え）、Heart（心）、Hand（勤労）、Health（健康）の頭文字で、「明晰な頭脳と忠誠な心、手に汗して社会と国家、そして世界に奉仕し、健康を増進して生活を向上する」4H運動の精神は、清里の清泉寮農場の理想と合致していた。1952年3月、清泉寮で第1回4Hクラブ全国大会が開かれ、若者たちが日本農業の将来を語り合い、アメリカ流の進んだ農業技術と機具に目を見張った。

実習農場は52年オハイオ州から贈られた酪農装備の到着によって「オハイオ実験農場」と名を変え、ジョン＝ディア社のトラクターは石だらけの荒野をあっという間に開墾し、アルファルファ・ラディノ＝クローバーなどの牧草やブロッコリー・レタス・ポテト・トマト・ラディッシュ・ライ麦・アメリカソバなどのアメリカから贈られた新しい種子が農家に配布されて栽培された。

1953年の凍霜害で畑作物は全滅に近い被害をこうむり、農家を耕種農業から酪農へ転換させる転機となった。同年、清里を含む4町村が農林省の酪農振興法に基づく集約酪農地域に指定され、低金利の融資と様々な優遇措置が受けられるようになった。

現在観光牧場を経営している谷口彰男は、56年北海道から現在地（丘の公園北側）に開拓入植し、次のように当時を語っている。「あの当時キープ農場は、まばゆいばかりに輝いていた。真っ白で大きなサイロ、大型トラクター、農場に入ると突然アメリカにきたようで目を見張る思いだった。」

56年、国際復興開発銀行は日本から申請のあったジャージー輸入費430万ドルを認め、58年の計画終了時までに640頭のジャージーが八ヶ岳山麓に導入された。キープの日本の高冷地農業にはたした役割は非常に大きかった。

Ⅱ－3 観光化の始まりと民宿期

清里駅北北西5km、八ヶ岳熔岩流の末端の孤立した美し森山（1,542m）周辺は、日本三大つつじの群落の一つといわれ、6月の最盛期には原野が真っ赤に燃える火の海の如くに咲き誇る。昭和初期、八ヶ岳登山や、このつつじ探勝に年間1万人が訪れていたが、観光化の夜明けは1950年代であ

る。1951年八ヶ岳牛首尾根登山道が、52年に飯盛山（1,634m）登山道が開設され、51年には美し森山北側に県営スキー場、54年に県営キャンプ場などがオープンした（写真2）。

1933年7月27日甲斐小泉・甲斐大泉・清里の3駅が開設され、C56蒸気機関車が客車一両と貨車による混成列車で運行され、1日4往復程度であった。清里駅前には開駅前から鉄道建設工事人夫らを相手とした商売屋ができていた。記録によると、駅開業時に駅前には、運送店・簡易旅館・豆腐屋の3軒があり、駅前通りは牛車が通るのがやっとの狭い路であった。

開駅と同時に八ヶ岳恩賜林からモミ・ツガ・シラベなどの木材の搬出が始まり、駅北側には大きな貯木場が設けられた。春から秋に伐採された木材はトロッコで貯木場へ運ばれ、秋に競売された。毎日10両程度の貨物列車が運行され、業者が貨車を奪い合うほど活況を呈したが、旅客は1日10人程度、小沢駅～清里間は10銭であった。

60年代になると小海線北側の県有林が別荘団地「清里の森」（西側）と学校寮団地（東側）が開発された。58年に東京教育大学付属小学校寮の建設を皮切りに、10年間に28区画（現在は36区画）が大学・市区町村の保養施設として開発された。清里の森も同じ頃、念仏ヶ原恩賜林保護財産区によって約100戸に貸与が始まった。一般客用宿泊施設として、64年に美し森山北側に町営「美し森たかね荘」が建設され、62年に山梨交通が清里駅から美し森までバス路線を開設した。

観光客の増加につれて、清里駅前に土産物店第1号ができ、和菓子と土産物の販売を始めた。47年から食料・雑貨を扱っていた店も63年に土産物の販売を始め、63年には絵葉書5,000部、のほか7・8月だけで麦藁帽子13,000個を売りつくした。58年に清里駅前観光商工会が組織され、63年に清里観光振興会に発展的に改組された。

しかし、駅南側は酪農主体の農業地帯のままで、乳牛1頭飼育するのに50aの農地が必要であり、自立酪農家になるには20頭・10haが必要であった。1965年には清里地区で244農家のうち、3ha以上はわずか8戸に過ぎず、開拓の余地もすでになくなっていった。ジャージー種は寒冷地に抵抗力はあるが、乳脂肪率は4.5～5.0%と高いものの搾乳量は年間3,000～5,000ℓとホルスタイン（3.2～3.5%、4,500～7,000ℓ）より少なかった。乳価下落の影響もあり、1969年に酪農の片手間に始めた民宿第1号が誕生した。「清里ユースホステルが観光客で埋め尽くされ、廊下で寝ている人がいる」と聞いて民宿を始め、8月前半だけで500人の利用客、秋には翌年の予約が入るほどの盛況ぶりだったという。72・73年と民宿を増築し、75年に乗馬施設を設け、酪農に見切りをつけて77年には土地を観光用乗馬施設に変えてしまった（写真3、4）。

これを契機に民宿経営が八ヶ岳地区と朝日ヶ丘地区の酪農家に伝播し、客に新鮮な牛乳を飲ませると同時に、搾乳体験もさせるようになった。69年、県により過疎対策の一環として「指定民宿地域」となり、民宿開業必要資金の借入金の利子補給（8.5%の利子のうち3%を補給）も行われるようになった。「高原の牧場でしばらくたてのミルクを」の牧場民宿は「女性自身」、「週間女性」、「週間朝日」などの雑誌で紹介されはじめ、72年以降「non no」はじめ若い女性向けファッション雑誌に紹介されて、観光客は70年の40万から75年は100万、84年には200万と急増していった（図2）（表2）（写真5）。

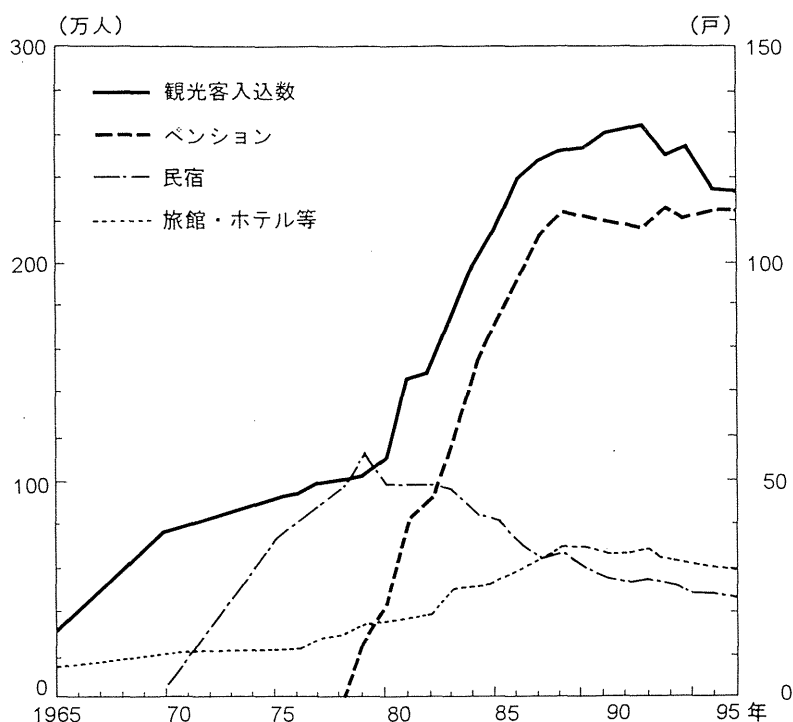


図2 高根町の観光入込客数と宿泊施設数（高根町役場産業観光課資料より作成）

清里駅前でも70年代半ばから民宿が開業し、78年には清里民宿組合が設立され、79年には20を数えた。清里高原民宿では79年に56戸とピークに達し、酪農の副業から民宿専業へ変っていった。1997年には民宿は19戸に減ってしまった。高根町の酪農家は乳用牛では、1966年には414戸・999頭（1戸当たり2.4頭）、71年がピークで379戸・1,220頭（3.2）となり、同年肉用牛も121戸・184頭（1.5）が導入された。乳用牛は73年に815頭に激減し、88年は51戸・990頭（19.4）である。肉用牛も1985年の978戸・1,640頭（21.0）をピークに漸減し、88年は53戸・1,340頭（25.3）で乳用牛よりも5割ほど多い。

Ⅱ-4 ペンションによる清里高原ブーム

日本におけるペンションは、1970年に草津温泉の中沢晃三のアイデアによる綿貫ペンションが第1号であった。ドイツのパンジオン（Pension）からヒントを得たもので、民宿とホテルの中間をねらったものであり、洋風民宿といったもので、日本独特のペンションとして確立されてきた。

清里のペンション第1号は1978年7月1日、Y氏によって誕生した。40代後半までの31年間銀行員だったY氏は、静岡で勤務の時、八ヶ岳地区開拓の指導者安池興男の知遇を得、ペンション経営の意をもらしたところ、牧草地730坪を紹介されて2,000万円で購入し、5,000万円でアルプス風木組造りのペンションを建てた。資金は横浜の自宅の売却金、退職金、親戚・銀行からの借金で賄った。民宿組

合・区長との相談の結果、観光に洋風化は避けられないので賛成してくれた。

78年の第1号に続いて、79年14軒、80年22軒、81年41軒、82年46軒、83年には57軒と、民宿を追い抜き、清里地区で最も多い宿泊施設となった。以来毎年10軒ほどのペンションがオープンし、97年は112軒である。80年には別荘地の売れ残りを大手ペンション＝ディベロッパーが引き取り、1万㎡の土地に12区画のペンション用地を造成し、80年に6軒のペンションがいきなりオープンし、ペンション村が誕生した。

清里には牧場民宿があったため、ペンションの導入普及は他の高原観光地に比べて遅かった。ペンションが急伸したのは高級志向への社会的ニーズ、とりわけ女性のニーズとそれをあおったマスコミの宣伝情報媒体があるが、それを実現したペンション＝ディベロッパーがあげられる。

(株)ペンション＝システム＝ディベロップメント(PSD)はその先駆的存在で、1973年に設立された。下念場地区のペンション村を中心として、ペンション建設を行い、開業資金の融資や開業に関する指導を行うほか、開業後は日本ペンション協会という経営者団体に加入させ、客の紹介、宣伝のサービス、経営指導を行っている。他方、プレハブ住宅メーカーの(株)大和ハウス工業と、その関連旅館業の(株)アビタと提携しているジャパン＝ペンションは、経営指導が徹底しているペンション供給会社で、八ヶ岳地区のペンション建設を手がけてきた。ジャパン＝ペンション系のペンションは、「アーリーアメリカン」を基本とした建築で統一され、増築も厳しく規制され、ペンションの名称も最終的にはジャパン＝ペンションが決める。開業後も経営指導・宣伝をジャパン＝ペンションが担当するが、(株)アビタが「non no」誌と提携していることで、優先的に自分の系列のペンションが宣伝紹介されてきた。

ペンション客の増加につれて、1976年に改装された清里駅近くの民宿の中から、民宿を止めて土産品・飲食店等の経営に転業する人が増えていった。駅前通り商店街の店がまえも若者向きの「メルヘンチック」なものに改装され、派手ではあるが薄っぺらなディズニーランド商店街が形成されていった。

1919年(大正8)の旧清里村の本籍人口954、現在人口942、戸数136、1戸当り6.9人であった。酪農全盛期の1970年、清里地区の農家は234戸、うち専業農家は68戸(29.1%)であった。農家234戸のうち115戸(49.1%)が乳牛を飼っており、1戸平均5.0頭の乳牛を飼養していた。久保川・西原・東原・上手など、谷の集落には水田もある。1農家当り1.51haの経営耕地があり、収積面積では牧草が96haとトップ、次いで水稻93ha、キャベツ5haであった。

今日清里地区の人口は約2,000人、住民基本台帳上では戸数617・人口1,924、集落別では表1のようである。

Ⅲ 観光地清里高原の構成要素

観光地が形成されるには、誰かが、いつか、何かの交通手段で、何かを見るために来るわけである。観光する場所、人が来る理由、交通手段、季節など観光地が形成される原因を追究するのが、観光地理学である。who, when, how, where (what), whyが、科学ではいつも重要な要素であるが、地表の形式と機能を探求する地理学においても、全く同じである。

表1 高根町清里地区の集落別世帯数と人口（1988.4.1）

部落名	世帯数（戸）	人口（人）
浅川	37	116
東原	43	145
上手	29	105
西村	37	124
八ヶ岳	117	366
下念場	49	166
駅前	164	472
東念場	47	161
朝日ヶ丘	61	187
学校寮	18	46
清里の森	15	36
計	617	1,924

（高根町住民基本台帳より作成）

表2 高根町清里地区にある宿泊施設別収容人数

施設	年	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
旅館・ホテル等	施設数	35	35	34	34	34	32	31	30	30
	収容人数	2,232	2,003	2,291	2,122	2,180	2,122	2,028	2,041	2,077
民宿	施設数	34	31	28	27	27	26	24	24	23
	収容人数	988	862	726	711	741	697	667	685	736
ペンション	施設数	112	111	110	109	109	113	111	112	112
	収容人数	2,748	2,991	2,940	2,947	2,979	2,959	2,853	2,850	2,836
キャンプ場	施設数	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	収容人数	768	1,196	1,110	1,060	1,100	1,100	1,060	1,060	960
学校寮	施設数	36	35	35	34	33	33	33	32	32
	収容人数	4,153	4,183	4,103	4,030	3,825	4,074	4,040	3,993	3,993
計	施設数	221	216	211	208	207	208	203	202	202
	収容人数	10,889	11,235	11,170	10,870	10,825	10,952	10,648	10,629	10,602

（高根町産業観光課）

Ⅲ－１ 観光客

人口9,188の高根町の北東の一部をなす清里地区（人口2,145）へは、毎年人口の1000倍に当る200万を越す観光客入込みがある。1985年の215万から年々漸増し、92年には265万とピークを迎え、96年は235万へ漸減している（図2・表2）。

季節別では、観光客235万の29.3%（69万）が8月に、23.2%（55万）が7月と、7・8月の夏季に52.5%が集中している。次いでゴールデンウィークのある5月に6.5%（15万）である。冬季の12月は1.8%（4万）、1月2.3%（5万）、2月2.4%（6万）とスキー客を除くと一般観光客は少ない。

キットメドウズ（Kitz Meadows）[大泉・清里] スキー場の1996年度スキー場入場者29.2万のうち、冬季入場者は17.4万人（59.6%）、夏季入場者は11.8万人（40.4%）と夏の客も多い。それは、1,900mまでリフトで登って観覧したり、夏スキーを楽しむことができるからである。旧北沢バルブ

の株式会社キッツの100%小会社キッツメドウズが、県から70haを借地、90年にオープンしたスキー場（20ha）の経営に当たっている。名称はオーストリア、チロール州東部のスキーのメッカ Kitzbühel にあやかっている。1,500台収容の駐車場が目玉で、リフトまでは近い。夏期の施設名は「キッツ メドウズ ハイランド パーク」で Kitzbühel・梅池高原・八方尾根と同様に夏期でも観光リフトを営業している。

JR 小海線清里駅の乗降客数をみると、93年・94年ともに14.5万人、95年・96年ともに14万人と微減している。月別では1996年は8月が断トツで3.5万人、次いで9月1.7万人、5月1.6万人である。8月こそ清里駅の稼ぎ時である。列車の運行本数は通常は小淵沢駅方面12本24両、野辺山方面も12本24両で、1両の定員は90人、原則1列車2両編成で180人定員である。週末には15本30両と、3列車増便され、秋分の日（9/23）のような多客期は16本31両となる。

清里高原へは東京駅八重洲口・横浜駅東口・甲府駅バスターミナルから直通バスが運行されている。東京からは山梨交通がJR 関東バスと共同運行で、7月20日～8月31日は毎日2便、9月1日～11月30日は土・日と祝祭日に運転され、所要時間3時間34分、終点は信州南牧村海の口別荘地内八ヶ岳高原（3,250円）。横浜からは京浜急行と共同運行で、7月19日～8月31日の1日1便、所要時間4時間、3,050円。甲府からは8月中のみ、1日1便、所要時間1時間半、750円。

清里高原内を3時間で周遊するバスが午前・午後2回8月中のみ運行され、2,700円。コースは清里バスセンター～萌木の村とオルゴール博物館～JR 最高地点（1,375m）～野辺山駅～宇宙電波観測所～美し森～（サイクリング）～清泉寮～（サイクリング）～清里バスセンター着。

7月20日～8月31日と9月～11月3日の日・祭日のみは清里駅から美し森と大泉・清里スキー場へは、1時間1本の間隔でバスが運行され、鉄道・高速バスで来訪した客の便に供している。

道路によって清里高原へ来る場合は、①東京方面からは須玉 I.C を出て国道141号佐久街道を北上する、②長坂 I.C を出て国道141号へ、③小淵沢 I.C を出て県道16号八ヶ岳公園有料道路から東向する、④小淵沢からはほぼ JR 小海線の南側に沿って東向する県道28号、⑤国道141号を信州野辺山方面から来る、5ルートが考えられる。

国道141号の交通量調査では、高根町箕輪963で、平日交通量7,057台（うち乗用車3,882台）、休日11,363台、ピーク時間帯15～16時、平均速度／指定最高速度、平日42.9km/40km、休日48.7km。高根町清里3,550では6,641台（うち3,603台）、休日11,839台、平日45.6km、休日49.9km/40kmである。

県道16号八ヶ岳公園有料道路〔俗称は八ヶ岳高原ライン〕は八ヶ岳火山をほぼ等高線（1,200～1,400m）に沿うように走り、県道路公社が建設し、清里駅北まで来て、駅東側で国道141号に合流している。途中動物の移動路を遮断しないため、トンネルにしたり、川俣川に架かる大橋は、横長490m・橋脚の高さ74mの壮大な連続トラス橋で、八ヶ岳・清里高原観光ポスターに用いられている風景で、観光要素の一つになっている（写真1）。有料道路料金は普通車250円である。

中央自動車道須玉・長坂・小淵沢 I.C の年間乗降台数はそれぞれ、2,180,938（7月の割合8.8%，8月の割合13.1%）、1,201,402（9.0%，11.9%）、1,342,085（10.0%，16.3%）で、8月のウェイトは圧倒的である。

観光客がどこから来るかについての調査はないが、各ペンションでの聴き取りでは7割が首都圏から、3割が山梨県内や静岡、中京圏である。サンプル調査が三つある。

①清里駅前通りの自家用車の通行記録（1995年10月19日、高根町役割の調査）：

山梨県377台（49.3%）、東京都117（15.3）、神奈川県83（10.9）、その他の関東地方52（6.8）、長野県46（6.0）、静岡県41（5.4）であった。

②キッツ＝メドウズ＝スキー場駐車場に駐車中の車両ナンバー調査（1997年10月18日・土曜日、12時30分～13時30分、筑波大学自然学類・小畑晴嗣調査）：120台中、

東京・神奈川・埼玉・千葉65台（54.2%）、山梨29（24.2）、中京11（9.2）であった。

③ポール・＝ラッシュ祭駐車場に駐車中の車両のナンバー調査（1997年10月18・19日、筑波大学比較文化学類・横山知美調査）：781台中、

山梨県300台（38.4%）、東京都144（18.4）、神奈川県89（11.4）、愛知県48（6.1）、長野県47（6.0）、埼玉県39（5.0）であった。

スキー場を除くとほぼ同じ傾向を示し、地元山梨県が4～5割、東京が2割、神奈川が1割強で、首都圏の車がざっと4割弱といったところらしい。

Ⅲ－2 宿泊施設

1997年現在、ホテル・旅館等、民宿、ペンション、キャンプ場、学校寮など含めて202あり、その収容人数は10,602、清里常住人口の約5倍である（表2）。収容人数1万人は89年の11,235人をピークに漸減している。

施設別では32ある学校・区市寮の3,993人に次いで、112あるペンションが2,836人と2番目である。民宿は年々減少して現在23軒、736人となっている。

〔民宿〕

1969に、酪農の副業として発生した清里高原の民宿が県の「指定民宿地域」に指定されて、県から低利の融資が受けられるようになった。民宿は70年代から83年、数においてペンションに抜かれるまでは、清里高原の「牧場民宿」として宿泊施設の主役であった。79年頃までは「設備を作れば客が入る」時代であり、ピークの79年には56戸を数えたが、現在は23軒。客は固定客・団体客が多く、口こみで広がっていくペンションブームによって衰退してはあったが、家族連れや音楽・剣道・ESSなどの合宿や会社の団体客も来て、それらを嫌うペンションとは客層の住み分けができてきている。かといってペンション組合員と敵対するわけではなく、同じ「来たれ者」（他所者）としての一体感から、親睦旅行を一緒にやったりしている。伝統的農村のおおげさな葬式に比べて、冠婚葬祭は非常に簡素であり、「付き合いも都会的」である。

1泊6,000円の協定料金で「清里高原民宿組合」、民宿経営者にも「清里宿泊者団体協議会」、「清里観光協会」などの役員が持回りで、まわってくる。牧場民宿・牛乳風呂のふじ乃屋や伊予ロッジのように、民宿専業として、大ホール・中ホール・テニスコート・トレーラーハウス（貸別荘）を設けて拡大・多角経営して成功しているものもある（写真5）。

しかし、民宿経営者のうち後継者の決まっているものは25軒中3軒（1995）しかなく、先細りであることは間違いない。借金せずに酪農の副業として始めた人がほとんどのため、民宿の開鎖や転業にはそれほど抵抗は感じていない。

〔ペンション〕

1993年の113軒をピークに現在112軒とほとんど増減がない（図3）。ペンションは脱サラ組が他者として、家族労働で経営する宿泊施設であるため、収容人数も20～30名と限度がある。1997年112軒で収容人数2,836人ということは、平均25.3人の収容人数である。

1979年、八ヶ岳地区は開業したジャパン＝ペンション系のペンションは、八ヶ岳を望む清里の自然と、ポール＝ラッシュのキープの影響のある開拓の歴史に魅せられて、父の土地が公共用地として買収されるのを機に、父の経営する愛知県の印刷会社のデザイナーを止めて、税務対策上の事業用不動産買い替えとして、清里に土地を求めた。弟がメイン州に留学していたこともあり、外観はニューイングランド風のイメージで統一した。名称もニューイングランドを舞台にした物語にちなんで名付けられ、ジャパン＝ペンションからも認可された。当初客層は登山愛好家が多かったが、開業翌年80年冬「non no」誌で紹介されると、若い女性が多くなった。「non no」が特集記事で「卒業旅行」を提案し、具体例として清里のペンションが紹介されると、オフシーズンの2・3月に短大生や女子高生が押し寄せるようになった。

82年、グリコ「セシル」のコマーシャルに、このペンションで三浦友和と山口百恵が会合場面使用されたり、さらにこのコマーシャルが田原俊彦と松田聖子に引き継がれてからは、若い女性の来訪が後を絶たなかった。

これら情報媒体の宣伝によるペンションブームで、いっきにペンションの数が増え、民宿増築のための土地の切り売りやペンション供給会社の活躍も、それに利していた。

山梨県商工労働部の八ヶ岳南麓3町1村（高根・長坂・小淵沢町、大泉村）を対象とした「八ヶ岳南麓広域商業診断報告書（1980）」によると、八ヶ岳南麓を訪れた観光客のうち、10代・20代が60％強を占めていた。専修大経済学部古島ゼミナールが、1981年に行った清里を訪れた女性の25％が民宿に、40％がペンションに宿泊していた。当時の民宿のキャパシティーは3割、ペンションは2割であった。「清里の何にひかれるのですか」のアンケートにも「自然・気候」、「牛・馬・ミルク・アイスクリーム・高原野菜」に続いて約2割が「ペンション」と答え、ペンションに泊ること自体が、清里来訪の目的になっていた（写真6）。

池・木下（1989）の研究に、37軒の「八ヶ岳集落におけるペンションの経営状況」が挙げられている。それによると前住地は東京都19（51％）、神奈川県6（16％）、埼玉県3（8％）と、首都圏が多い。前職では37人のうち6人の自営業者を除くと31人（84％）がサラリーマンで、「ペンションのオーナーは脱サラ」は真実である。37人のうち13人がジャパンペンションに加盟しており、他3人も以前に加盟していた。

1997年6月、清里の112ペンションのうち33へのアンケート調査によると、経営は79％が夫婦で、年齢層では40代45％・50代24％・30代18％・60代12％であった。前住地は池らの調査と同様に、東京

45%・神奈川27%・千葉6%と首都圏が78%と圧倒的であるが、より広い地域から来るようになった。前職は76%が会社員なるサラリーマンである。ペンションを始めた動機は、(複数回答)「自然環境の中で豊かな暮らしがしたかった」(会社中心の生活打破)10,「サラリーマン生活、都会生活がいやになった」6,「好きな山で働きたかった」4,と自然への共感者が多い。

ペンション設立年は、オーナーが替っていたりして不明の者もいるが、83年7(22%)・80年4(14%)・84年3(9%)・86年3(9%)などである。80年代前半がペンション設立期であった。収容人数は21~30人が19(59%)・20人以下8(25%)・31~40人3(9%)である。宿泊料金は~8,500円17(53%)・~9,500円6(19%),それ以上5(16%)・~7,500円4(12%)であった。料理は家庭料理19(51%)・フランス料理9(24%)であり、客層は家族連れ29(50%)・女性14(24%)・男性7(12%)・学生6(10%)であった。

脱サラの「一匹狼のオーナー」は、時とすると地元地域社会から遊離し、トラブルの元になりかねない。ペンションへの通路の使用に数十万円請求された、とか、客が別の方向の道を教えられたとか、ゴミだけ出して村に非協力的である、などである。年2.5万円の会費を出して「ペンション組合」を結成し、町との交渉の窓口機能をはたしているが、加盟者は112軒中91軒である。

山中湖村・草津町などでの調査では、ペンションのオーナーは一種独特の気負った臭みをもった人が多く、成功せずに止めて他人に経営譲渡しているものが意外に多い。

[学校・区市寮]

第1号ペンション出現から5年経った83年より、総合運動施設「丘の公園」と、別荘・学校区市寮「清里の森」の建設が始まった。前者が131ha、後者が180haで、いずれも県有林を開いたものである。清里の森は個人別荘地835区画、学校・区市保養施設47区画、ペンション・ホテル6区画のほか、テニスコート(10面)・屋外ステージ・レストランなどがあり、管理は第三セクター(県財務部・企業局・念場ヶ原山恩賜林保護財産区)の「清里の森管理公社」が当たっている。別荘地は土地利用権の分譲で、分譲価格は700~1,000万円、共益費のほか賃貸料が平均25万円で、一般の所有権分譲価格に比べてはるかに安かったため、85年第1期分譲後3年で完売された。合計883区画の購入者の7割は県外者、その85%は首都圏在住者であった。

清里の森別荘地の入口は、車はオートロック方式でのみ入れ、部外者は自由に入れないシステムになっている。最東部の法人・公共団体保養施設地区は、県観光課が中心となって開発を進め、1958年に東京教育大学付属小学校の学校寮が建築されたのを皮切りに、36区画に建設されている。次のような地方自治体や学校が寮をもっている。小金井市・日野市・府中市・立川市・甲府市・調布市・目黒区・小平市・山梨大・青山学院大・日大・明治大・文京大・武蔵野美術大・帝京大・横浜国立大・大妻学院・京橋高校・明星学園・横浜学園・洗足学園・文化学院・山脇学園・昭和学院・駿大西学院・竹早会・中野工業南葛会・筑波大付属小学校など。

Ⅲ-3 観光対象

他所の人が観光目的で来訪するのは、何かを求めて来るわけで、それが①自然そのもの、②人口施

設物、③ポール＝ラッシュ祭のような臨時に出現するイベントに3区分できる。

〔美しい自然〕

八ヶ岳（最高峰赤岳2,899m）をバックに走る高原列車や東沢大橋下の川俣川溪谷の紅葉、美し森周辺のツツジ、広大な県営八ヶ岳牧場、鉄道最高地点など、清里高原内外には観光対象となり得る自然が豊富にある。

〔人工施設物〕

火山山麓に戦後入植した開拓農家と畑・牧草地などは、都会人にとってはそれ自身教育的観光対象である。美し森北方の大泉・清里スキー場は、96年度に29.2万人の入場者、リフト利用者数は237万であった。季節別では入場者・利用者は冬季17万・208万、夏季12万・29万であり、夏季（7～10月）といえども入場者で年間の40.3%、リフト利用者で12.1%で、1,900mまでリフトで登って展望する客が多く、オーストリアのKitzbühel アルプスのリストやスキー場の周年利用を想起させる。特に8月の入場者は6.4万で、リフト利用者は17万と非常に多い。

駅前商店街

清里駅南側から南西へ、駅北側清泉寮へ行く踏切まで26の建物が並ぶ、約250mが駅前商店街で、メルヘンチックな建物が並び、80年代に若者女性観光客を引き付けたところである。旧村の檜山や長野県平沢地区から農家30軒が移り住み、「駅前区」が形成された。70年代の牧場民宿ブーム、80年代のペンションブームによって観光客が急増するにつれて、農地を売って観光客対象の商売を始めた。

1995年にはカラフルな敷石を埋め込んだ舗道も整備されて、ミニ軽井沢が出現しているが、商店の単体はミルクポット・牛・振り子時計やミニシャトー・時計塔をデザイン化した凝った形態のものが多く、この端緒となったものが喫茶店 MILK とメルヘンであった。MILK は商店街西端の南西、やや孤立したところにあり、開店当初は登山客相手の普通の店であった。77年12月発売の吉田まゆみの漫画「続・年下のあんちくしょう」の中で、数コマ取り上げられて以来、高校生などの若い女性が殺到するようになった。漫画登場のきっかけは、吉田まゆみが経営者の奥さんの友人で、MILK 開店まもない頃に清里に遊びに来たことが契機であった。翌78年のシーズン中は開店前から行列ができるほどで、さらに女性ファッション誌など多くの雑誌で紹介され、経営者夫妻の感性でデザインされた店内の内装や小物も若い女性にアピールし、若者の間では「清里名所の一つ」になった。

駅から国道141号へ下る道路の東側、駅前通りとの分岐点にあるメルヘン喫茶店は78年檜山地区の20歳代の人によってオープンした（写真10）。語の持つ雰囲気だけで命名しただけで、Märchen（おとぎ話）の原義は知らなかった。そば・ラーメン・丼物といった数軒の食堂と、まんじゅう・白樺細工・麦わら帽子を売る土産物屋しかなかった78年に、白とピンクを基調とした店構えのメルヘンは、女性の注目を集めた。外観のみならず、出窓にぬいぐるみ、天窗はバラの花をあしらったステンドグラス、トイレにもぬいぐるみ、オルゴールの演奏を流し、女性を魅了した。開店1年後、79年に客の提案で、みつはしちか著「チッチとサリー」を参考にしたメニュー表が用いられ、ミルクは「チッチ」、コーヒーは「サリー」、レモンティーは「たんぽぽ」といったように、童話的な呼び方がされる

ようになり、若い女性の好評を博し、80年代には多くの雑誌で「メルヘンチックな清里の象徴」として取り上げられ、MILKとともに「清里名所の一つ」となった。紹介雑誌持参で訪れる女性も多く、雑誌の宣伝効果は莫大であった。

MILK・メルヘンに刺激されて、他の商店も洋風でパステルカラー調の外観に改築していった。登山客から若い女性へ客層の変化に、ラーメン・丼物の和食から洋食へ、郷土色豊かなまんじゅう・白樺細工からトレーナー・アクセサリー・Tシャツへ商品も変っていった。商店の西端は食堂・民宿の兼営の店であったが、80年代半ば、世代交替とともにぬいぐるみ・皮製品の土産物店のほか、喫茶店・レストランを兼ねた20軒のテナントの入ったショッピングセンターCが誕生した。小さな広場のワン・ハッピー・プラザの中央に時計台が設けられ、駅前商店街西端の休憩広場としての役割も果たしている（写真8・9）。駅前商店街のカラフルな舗道は「コアロード」と呼ばれ、店にはHAPPOKAN（八峰館）、ポップ・KIYOSATO・SUZURAN・Green Park・HIKARIYA（妃加利屋）など横文字やカタカナ名の店が連なっている。メールヒェンティックな商店街は、統一し、相談して作り上げたのではなく、商店主が「他よりは目立つものを」との意志を、設計者が具体化した結果である。

土産物のうち清里産のものは「清里牛乳もち」・「牛乳」、高根町八巻酒造の「男山」・「清里」・「巫女の舞」、県内産では「ほうとう」・「信玄餅」・「ワイン」、信州産の「ミルクケーキ」・「野沢菜」などが主要なものである。

清泉寮

清里のシンボルであり、観光の歴史を刻んでおり、駅の北西1.5kmにある。清里農村センター（キープ協会：KEEP：清里実践的教育計画）の施設の一つで、生みの親ポール＝ラッシュの胸像が木造宿泊施設の前庭に立っている（写真11）。聖アンデレ協会・高冷地実験農場・聖ルカ診療所・聖ヨハネ保育園・聖ヨハネ図書館・牧場・搾乳施設・山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター・ネイチャーセンター・ポール＝ラッシュ記念センター（96年4月オープン）などがコンプレックスをなし、アルペンムードが漂っている。ここでのソフトクリームこそは、清里酪農の派生商品として、観光的に成功したものの一つになっている。清里観光客の誰もが訪れる清泉寮の集客力にあやかって、環境庁の補助金で県が190坪に「八ヶ岳自然ふれあいセンター」というミニ山岳博物館をオープンしたことは、観光客の便を図った点でも当を得ている。

萌木の村

駅南東1kmにあるアートを中心とする18の小さな商店が集中した地区で、ポール＝ラッシュと親交のあった船木上次氏が、71年に開店した喫茶店ロックが発端であった。ポールの開拓精神に共鳴する人々が集まり、森の生活の中から感性を表現する創作活動を生かしたドライフラワー・ジャム・焼き物・木製小物・皮製品などの製造販売が行われている。「萌木の村」とは、「清里の核としての人を育て、地域とともに進む新しい文化の発信地」とのコンセプトで1980年に開村した。「森」を統一イメージに据え、一軒ごとに違うデザインの木骨の家に収まっている。経営は個別企業であるが、県からの補助金のはじめのうちは出していた。

船木氏は1971年20才で大学を中退し、清里最初の喫茶店「ロック」を開店した。萌木の村はそのコンセプトをヘンリー・D・ソロー著「ウォールデン—森の生活」に求め、「真に生活に必要なものだけが、心の豊かな生活を満たす。」、「人間は、なしですますものが多いほど、それに比例して生活は豊かである。」に共感する者だけが出店を許された。各店はポール＝ラッシュの「Do your best and it must be first class」の精神で、本物を求めることに全力を投入している。

1997年6月4・5日、清里観光のメッカである清泉寮と新しい観光地の萌木の村および清里駅の3カ所で、観光客35名ずつに面接調査した（中井・中畑ほか、1997）ものによると、観光客の3/4は女性である。調査日が水・木曜日であるためもあり、無職の女性がいずれも3割を占めているほか、清泉寮では無職（主婦を含む）の女性28%に次いで、会社員の女性が26%も占めている。会社員の男性が25%もいるのも驚きである（図4）。

訪問回数では、清泉寮・萌木の村ともに初めての人よりも数回のリピーターが多いのも意外で、常連もいる（図5）。とくに萌木の村は、35名中、数回が15人、初めて13人、常連が5人もいる。清里駅のみは初めての来訪者と数回目の来訪者が16名ずつで同数である。

清里駅前商店への入店理由は、「買いたい物」12「雰囲気」8に対して、清泉寮・萌木の村は「買

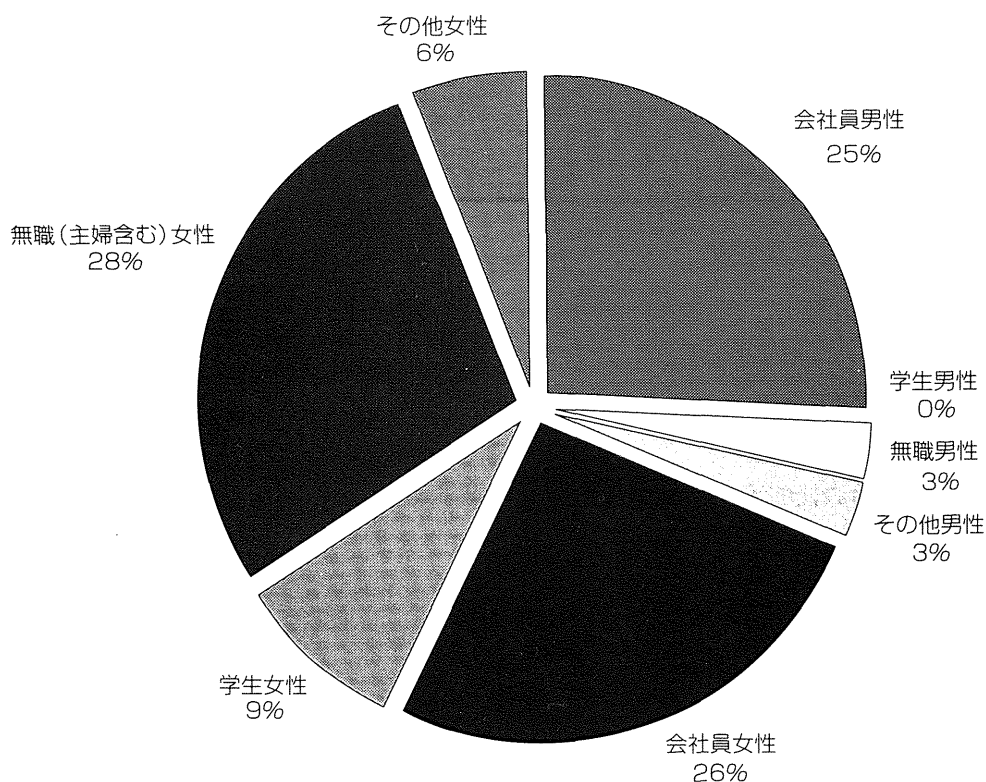


図4 清泉寮来訪客の性別と職業（1997年6月4・5日面接調査）

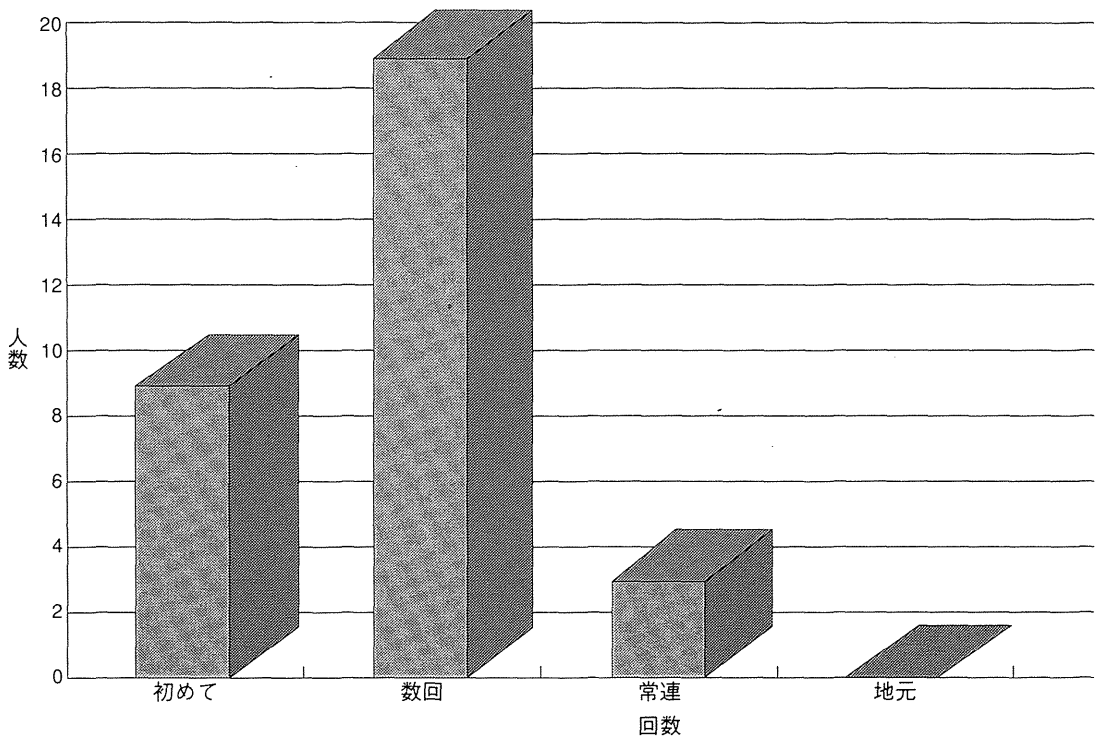


図5 清泉寮来訪客の来訪回数（1997年6月4・5日面接調査）

いたい物」がそれぞれ20・18に対して「雰囲気」が14ずつと、雰囲気を求めて入店している者が多い。土産物に対する評価では、萌木の村のものの評価が高く、次いで清泉寮・清里駅前の順であった。

博物館・美術館

【ホール・オブ・ホール】は「萌木の村」構想の中で生まれたもので、1986年に社長の趣味で集めたアンティークオルゴールを公開したものである。ヨーロッパ・アメリカのオルゴール250台と、平安から大正にかけての日本の伝統食器を収蔵する博物館である。年間15.7万人の入場者があり、冬でもペンションの固定客が来てくれ、クリスマスとニューイヤーコンサートは地元の人々にも開放している。1996年は8月に4.3万人（27.2%）来客、最小は2月3,052人（1.9%）で、5月から10月までは1万人以上の入館者がある。敷地は7.3万㎡もあり、駐車場も2,224㎡もある。「萌木の村」のコンセプトの一つである「一時の流行とは無関係の、若者だけでなく大人も満足してもらえる、本物志向を目指す村」にも合致し、an-non 族が押し寄せた駅前商店街の行き方に、暗に対抗した姿勢の表れとも受け止められる。専属の解説員がいて定期的に説明し、実演の時間を設けている。

「ア・ミュージアム・オブ・アート」は1987年4月、清里の森南東部にあり、「清里の森美術館」とも呼ばれている。彫刻家田中治彦と夫人が館長・プロデューサーを務める個人美術館で、1万㎡の林間に1,300㎡の3.5億円かけた白い建物が立ち、年間8万人の来訪者がある。田中治彦は大英博物館

に作品が展示されている世界的アーティストであり、宝石・貴金属を素材として、果物・野菜・昆虫をモチーフにした作品が多い。きらびやかさとは裏腹に、根底に描かれているものは「人間の業」であり、「あの作品を見るためにもう一度」訪れる人も多くなっている。立地選定理由は、①豊かな自然、②首都圏に近い、ことで、客数の少なくなる12-3月は休館し、制作に没頭する。

〔北沢美術館〕は、1989年4月開館し、北沢バルブ会長北沢利男が長年収集したアール・ヌーヴォー期のガラス工芸と、日本画のコレクションを一般公開したものである。北沢美術館は計3カ所あり、諏訪に次いで2番目にオープンし、第3番目は幕張新都市にある。それぞれ異なるコンセプトの作品を展示しており、清里はエミール＝ガレの「フランスのバラ」やドーム兄弟の作品と、パート＝ド＝ヴェール技法で作られたガラス工芸100点を常設し、4月に一部は入れ替える。駅前商店街西端から踏切を渡って北へ、清泉寮へ向かう道の西側、落葉松の森に囲まれたところに鉛板で葺いた切り妻三角屋根の建物がある。立地要因は、町に南西隣する長坂町に会長の経営する工場(株)Kitzがあり、営利と会社のイメージアップのため清里に設置し、年間20万人の入館者がある。客は若い女性、年配の女性(婦人団体)、学校の団体などである。北沢バルブは清里に子会社(株)Kitz Meadowsを設立し、大泉・清里スキー場を、長坂にはゴルフ場をもち、多角経営のうちの 하나가美術館である。

〔清里現代美術館〕は、1990年9月オープンし、中学校の美術教師伊藤信吾の収集した現代美術作品を展示したものである。駅南西750m、県立八ヶ岳少年自然の家西側のペンション地区にあり、東京でBeuys Roomという名でBeuysの作品のみを展示していたが、その拡張としての場所を探した結果、青梅・小泉を超えて当地に金銭面で合致した土地を求めた。土地購入に2.1億円、建物に1.5億円をかけた。私営美術館で、4人のスタッフのうち、伊藤信吾の兄修吾が館長を務めている。年間1.2万人の入館者のうち、若い女性が多く、関東と関西・中京の比率は6:4であり、口コミ情報から訪れる人が多い。

〔えほんミュージアム清里〕は、1997年4月、渋谷出版企画・東京ブックランド・コスモスマーチャングाइズの共同でオープンした。常設展示では、20年の作家生活の中で48作の絵本を残し、47才でこの世を去った画家エロール＝カインの作品を展示している。オープニング記念特別展示では、「うさぎのミッフィー(うさこちゃん)」のオランダの絵本作家ディック＝ブルーナ展を開いた。

これ以外にも、陶芸美術館、フォトアートミュージアムなどがある。ホール＝オブ＝ホールズのオルゴール博物館以外は外来のもので、いずれも美しい清里の空気と森の「ふさわしい環境」を求めてやって来ている。長期滞在別荘客・学校寮客・一般客などを対象とし、しかも、雨の日など屋内観光の場を提供するとともに、美術の里、芸術の里としてのイメージがしだいに形成されている。

丘の公園

1983年から4年計画で工事が進められ、86年7月にオープンした総合運動公園である。ゴルフ場(27ホール)・球技場・ゲートボール場・パターゴルフ場・テニスコート・レストラン・アクアリゾート(プール+温泉、96年4月26日オープン、96年の入場者9万人)などがあり、131haを、県林務部・同企業局・念場ヶ原山恩賜林保護財産区で設立した財団法人「丘の公園管理公社」が管理している。

[イベント]

ポール＝ラッシュ祭として知られる清泉寮に南隣する牧草地で毎年10月中旬の（土）（日）に行われる Paul Rusch Festival Yatsugatake Country Fair は、清里最大のイベントである。アメリカや国内から多くの人を集め、突然アメリカの農村のお祭が清里に出現する（写真12）。本来は秋の収穫感謝祭であったものが、音楽演奏・コンサート・ラッシュボウル・関東大学アメリカンフットボールなど様々な催し物が同時に行われるようになって肥大化している。それ以外に清里観光振興会で発行している「Kiyosato Event Calendar」によると、最もイベントの少ない2月でも10のイベントがあり、8月は20もある。ポール＝ラッシュ祭に次いで大きなものとして「清里アウトドアフェスティバル'97が6月7・8日（土）（日）に、第50回清里高原つつじ祭りとして清泉寮南牧草地で行われ、大クラフト市・フィールドコンサート・カントリーバーベキュー・ヘイライド（牧草トラクター乗り）・ファミリーウォーク大会・アウトドア展示・空の散歩などが同時平行的にくりひろげられて観光客を呼び集めている。

IV 清里高原のイメージ

このテーマは専修大学経済学部古島ゼミナール（1981）、池・木下（1989）、近藤（1992）、中川（1993）、小川・川村（1997）ら多くの人が扱ってきたテーマである。「イメージとは感覚・知覚像でありながら、それによって事象を予期し、行動を準備し、統制する。」ように、観光にあつては、そこへ行ってみようという行動をおこさせるものである。イメージと実態とは絶えず相互作用的であり、変化していく。

一般の人にイメージを抱かせ、行動に移させるためのイメージ媒体が必要である。行政を含めた当局・旅行業者・情報媒体・大衆、立場によって、イメージの描き方に違いがある。しかし、TV・新聞・雑誌に宣伝が溢れ、それによって大衆はイメージを形成し、行動していることも事実である。古島ゼミナールの首都圏と現地清里で1,957枚のアンケート調査（年は記載されてないが、1980年と推定される）結果では、清里を知るきっかけは「知人に聞いて」39%、「雑誌」27%、「旅行雑誌」14%、「マンガ」9%、「ガイドブック」5%となっていた。

Precording の調査らしく、読む雑誌では、清里へ来た人の56%が non no（集英社）、JJ（光文社）26%、るるぶ（JTB）23%、an an（平凡出版）22%であった。

清里に関する雑誌記事を①ペンションブームの始まる前、②ペンションブーム期、③ポストペンション期に分けて、記事にみられるイメージ、主な観光施設、イメージにまつわる主な記事に整理した（中川、1994）（表3）。来訪者の6割が読んでいる non no 誌の清里関連記事を見ると、

①1979年以前 [ペンションブーム前] :

「小海線／高原のロマンをのせて」、「八ヶ岳高原・夏物語—小海線でたどるハイランド旅情」のタイトルで、キーワードは清泉寮・牧場民宿・牧場・MILK・小須田牧場・美し森などと、美しい自然環境がイメージされていた。

②80年代前半：ペンションブーム期：

表3 清里に関する雑誌記事

[1979年以前]			
雑誌名	るるぶ	an an	non no
記事にみられるイメージ	牧歌的イメージ 八ヶ岳山麓の自然環境と牧場のイメージを強調。	牧歌的イメージ 八ヶ岳山麓の自然環境と牧場が強調され、日本とは別世界というイメージ。また、グラビアを多用したファッションの紹介記事が目立つ。	高原とメルヘンのイメージ 清里寮や牧場民宿の紹介に主力が置かれていたが、1978年からはいち早く「メルヘンチック」なペンションが記事の中心となっている。
主な観光施設	清里寮（'73, '77, '78, '79） 檜山部落（'73） 喫茶店「山彦」、「ロック」 美し森・飯盛山ハイキングコース（'77, '79） 牧場民宿（'78） 喫茶店「MILK」（'78）	清泉寮（'72, '73, '76, '77） 牧場民宿（'72, '75, '76） 美ノ森（'72, '76, '77） 喫茶店「ロック」（'73, '76, '77） 喫茶店「MILK」（'77）	清泉寮（'72, '74, '75, '78） 牧場民宿（'72, '75, '77, '78） 喫茶店「MILK」（'78, '79） ペンション（'78, '79）
イメージにまつわる主な記事	「夏の清里は人、人、人の波。そのワりに俗化しない。」（'73）「牧場にはどこか西部劇のムードがあるのだ。」（'78）	「白い雲、澄んだ空気、緑、のどかな牧場風景……とにかく、私達が高原に望むもの全てがここにあるような気がするのです。」（'75）「八ヶ岳高原の牧場は、まるで日本の牧場とはイメージが違っている。」（'76） 「第二の軽井沢にならないところがどうやら清里の魅力。」（'76）	「高原の牧場で、しほりたてのミルクを……。」「赤屋根の清泉寮で、のんびりと好きな詩集など……。」
[1980～1985年]			
記事にみられるイメージ	「メルヘンチック」なイメージ ペンション、喫茶店、駅前メインストリートが中心の記事、ペンションの紹介はカタログ化され、毎年掲載された。	1980年の詩集「清里高原の新しい話題」以来、清里の記事はほとんどみられない。1983年以降は旅行記事自体がみられなくなる。	「メルヘンチック」なイメージ 特集記事の見出しのほとんどに「ペンション」という語句が使われる程、「メルヘンチック」なペンションが記事の中心となっている。
主な観光施設	清泉寮（'80, '81, '83, '84, '85） 「MILK」（'80, '83, '84） 「メルヘン」（'80, '81, '83, '84） 小須田牧場（'80, '81, '84） 萌木の村（'81, '83, '84, '85） 駅前商店街（'83, '85）	「MILK」（'80） 清泉寮（'80） 「ロック」（'80） ブチホテル「ハットウォールデン」（'80）	ペンション（'80, '81, '82, '83, '84, '85） 清泉寮（'80, '82） 萌木の村（'83, '85）
イメージにまつわる主な記事	「原宿がそっくり引越してきたみたい……。」（'83） 「ルンルンギャルとメルヘンチックなペンションで有名になった清里だが……。」（'84） 「ブルーやピンクの淡いパステルトーンで塗られたメルヘン調の喫茶店やペンションが立ち並び……。」（'84）	「日本にいながら、スイスのハネムーン気分が味わえる。」（'80）	「白いムードで統一されたペンション」 「小さな手作りの温かみ」 「朝食の新鮮なミルクと高原野菜」
[1986～1992年]			
記事にみられるイメージ	イメージの多様化 開拓の歴史に触れるなどブームの見直しながざれるとともに、美術館や高原ホテルなどの記事が増える。全体の記事数は減少。	清里関連の記事はなし。	この時期、清里に関する記事は、1988年に2回掲載されただけ。7.20号では、3年ぶりに16ページにわたる特集が組まれた。
主な観光施設	萌木の村（'89, '90, '91） （ロック、ホール・オブ・ホールズ、ケープコッドなど）ア・ミュージアム・オブ・アート（'89） 北澤美術館（'89, '90） 清里高原ホテル（'90, '91） レストラン「イゾルデ」（'89, '91）		ペンション（'88） 清泉寮（'88） 萌木の村（'88） 喫茶店（'88） レストラン（'88）
イメージにまつわる主な記事	「おとぎの国から抜け出してきたようなペンション村と、のんびり草を食む高原の牛たちの牧歌的な雰囲気が見えてくれる。」（'89） 「本来の清里って言うのは、もっと自然で飾り気のない素敵なところですよ。」（'91）		

「ペンション春の前奏曲」・「心はずむペンション」・「今、ときめきのペンション55軒」・「ペンションで過ごすホワイトクリスマス」・「ペンション緑の休日」・「風走る秋のドライブー軽井沢から清里へー」・「高原ペンションからの招待状」・「今年の夏は清里へおいで」のタイトルで、キーワードはペンション・清泉寮・萌木の村・谷口牧場など、ペンション一色とっていいほどのフィーバー報道ぶりであった。

③ポストペンションブームの1986年以降：

「春のペンション卒業旅行」・「清里、とっておきの楽しみ方10」のテーマで、キーワードは相変わらずペンション・清泉寮・乗馬・貸別荘・小海線・萌木の村・喫茶店・レストランと相も変わらず同じパターンである。しかし、るるぶ誌はホール＝オブ＝ホールズ、北沢美術館・レストラン「イズルデ」などの新しい現象を取り上げている。また「本来の清里って言うのは、もっと自然で飾り気のない素敵なおとこです」といったような、ペンションと駅前商店街で象徴される余りにも人工的なイメージへの反省・批判記事がみられるようになった。

「清里の父」ポール＝ラッシュの薫陶を受けた清里観光振興会会長の興水順彦ら、若手グループは、駅前のメールヒェンチックな商店街などを、「チャラチャラ、薄っぺらな商法を展開し」、「映画セットみたいな街」であり、清里が「ミーハー化、俗化」してしまっていると考え、もっと地元民自身が楽しめる町にしたい、と改善策を模索している。

1997年6月3～6日、小川健一・川村智子は、高根町以外から清里を訪れた10才以上の観光客102人にアンケートによって、清里訪問前に清里に抱いていたイメージと、清里来訪中に抱いたイメージの差の調査をした。観光情報は「発信者」・「仲介者」・「受信者」の立場によって異なることと、受信者にとっては体験の前後および体験（来訪）回数によって変るという仮説で調査した。

清里来訪前のイメージ：

高原75%，避暑地47，牧場47，清泉寮39，メールヒェン27，美術館13，温泉3
カントリー15，キャンプ10，農業4
ソフトクリーム69，自然43，テニス13，スキー11，登山9
乗馬18，ハイキング18，サイクリング8，ガラス工芸3

清里来訪後のイメージ（3回以上来訪者）：

高原74(82)%，避暑地52(37)，牧場39(53)，清泉寮26(49)，メールヒェン23(31)，美術館10(12)，
温泉3(2)
キャンプ19(8)，カントリー7(24)，農業3(6)
ソフトクリーム61(77)，自然52(41)，登山23(2)，スキー13(14)，テニス10(16)
乗馬19(22)，ハイキング10(22)，サイクリング10(8)，ガラス工芸7(2)

山梨県居住者の清里に対するイメージは、来訪前で牧場64%，清泉寮57%，ソフトクリーム79%と、他のインフォーマントよりも特に高い値を示し、県内では清泉寮のもつ重要性が非常に高いことを示している。清泉寮は即牧場であり、その牛乳で作ったソフトクリームと、この3つのものは一体のものであり、歴史的・文化的に清里のイメージが県内ではポール＝ラッシュと一体でとらえられて

いる。

清里は結論的に8割の人にとって高原イメージであり、「八ヶ岳を背景に日本JR最高地点を走る高原列車に乗り、清泉寮でソフトクリームを食べる」というのが、清里観光のイメージの最大公約数といったところである。「カントリー」・「近代的」なるイメージは来訪後にもつ人がいることは、来訪前にはそのような情報が与えられていないためである。逆にガイドブック・雑誌で与えられるイメージ情報の多いものほど、来訪後そのイメージ減少幅が大きい。

「JTB ポケットガイド」(1966)には「清里はいろいろな表情を持った街」、美術館周辺を「清里本来の魅力を追求したニューリゾート」と記している。JTB「るるぶ情報版」(1997)では美術館周辺を「メルヘンチックなリゾートから文化・芸術の里にリニューアル」、さらに最近では別荘地としての評価が高まり、落ちついたリゾートへと移行。美術館・工房などの文化施設、スポーツ施設がさらに充実し、多彩で中身の濃いアメニティが幅広い世代を呼び寄せている。」と記している。ふるさと振興課の峡北総合情報雑誌「Breeze」では、「高原の町・清里は今、美術館のある高原としての装いを新たにしています。」・「高原の自然と芸術・趣味がドッキングした新しい時代の余暇を自由に選べる。」と結んでいる。いたるところ清里がメルヘンのイメージから脱皮し、芸術の高原へとイメージチェンジしていることが、各誌で強調されている。

「清里に来て意外に感じたことがある。」と答えた10人に9人はガイドブックを持っており、意外性は「駅前商店街建造物群の自然との不似合いさ」・「清里の豊富な自然への驚き」・「野鳥」によって示された。横浜から来ている中学生林間学校の指導教師は、「ガイドブック・文字にとらわれない自然を感じ取ってもらう」のが教師の立場であると主張するが、「清里の『自然』は訪れた後に、より強く実感するもの」と解釈できる。

当局側が発信する清里観光情報を、高根町役場：インターネット清里高原観光案内によると、「清里はこんなにも自然にあふれている。深閑とした空気、パノラマのように広がる八ヶ岳連峰、豊かに生い茂る美しい森、そして夜空を彩る満天の星たち。ネイチャーランド清里は、四季それぞれの魅力で私たちを誘う。活気あふれる清里駅前。しかし一步はなれてみると、雄大さと繊細さが数多く残されている清里。草木がいっせいに芽吹く新緑の頃、涼やかな風が肌に心地よい高原の夏、燃えるような紅葉に抱かれる山々が美しい秋、降ってきそうな満天の星がもっとも光り輝く冬、どの季節に訪れても、きっと誰もがこの自然の魅力に取り憑かれてしまうだろう。」

V おわり

八ヶ岳南麓に展開する観光地清里高原は、1938年の小河内ダム建設による水没農家28戸62人の入植開拓で、現代の集落の展開が始まった。わずか60年弱の短い年月の間に、有数の観光地に成長し、第1号民宿が1969年に誕生してからわずか30年弱の年月しか経っていない。その原因を追究した結果は、次のようにまとめることができる。

①1933年、小淵沢駅より小海線が開通し、八ヶ岳登山や美し森のつつじ観賞に観光客が訪れるといった、自然立地の観光の芽があった。

- ②水没難民の集団入植開拓と同じ年1938年に、ポール＝ラッシュが清泉寮の礎を築き、第2次大戦後の酪農の指導普及、ひいては今日の観光地化の布石が打たれていた。
- ③酪農の行き詰まりが「牧場民宿」の発達の起爆剤となり、「高原の牧場で、しほりたてのミルクを……」といったイメージを喚起した。
- ④ペンションブームは、他の地域よりは民宿ブームが強かったために遅れて出発したものの、民宿イメージの延長線上に、non no, an an, るるぶ, 女性自身などの雑誌で、高度成長による人間行動の変革と軌を一にして若い女性の一人旅を誘った。ムードとイメージに弱く、自主性のない日本女性は、清里紹介雑誌を手に持って、コンベアに乗ったようにペンションに泊りに来た。
- ⑤ペンション建設業者の活躍と、イメージ旅行女性軍を受け入れるペンションが、高度経済成長の疲れが出てきたサラリーマンを脱した人々によって建てられていった。
- ⑥メールヒェンチックな建物が並ぶ駅前商店街・喫茶店・アート土産店街「萌木の村」などが、イメージに応えるように形成され、それらが逆に次の新しいイメージとなるといった、イメージと実態の交互作用によって、清里観光地が形成されていった。
- ⑦萬物流転、映画のセットのような駅前商店街への反動、若い女性の海外旅行ブーム、バブルの崩壊などによって女性客は減少した。梅雨季・冬季・雨の日などに役立つ博物館・美術館が増えてきて、芸術が新しい清里のイメージとなりつつある。
- ⑧ポール＝ラッシュ祭、つつじ祭り、官主導の丘の公園などのイベントなども、観光地形成の大きな要因である。しかし、一貫して人々を引き付けているものは、その美しい八ヶ岳山麓の自然と高原イメージである。
- ⑨小泉・大泉・野辺山など、同じ自然条件の場所は他にもあるのに、清里がこれほど急速に観光地になり得たのは、短い歴史ながら水没難民の入植開拓とポール＝ラッシュの布石を生かしたイメージと、イメージ媒体の雑誌との相互作用、相乗効果であった。

野辺山高原の酪農を最初に見たのは1955年大学2年生の夏であった。38年後大学院地域研究研究科地域調査法で1993年（6月1～4日）、中川正講師および院生12名と、1997年（6月3～6日）、村山祐司講師および院生16名との2回、比較文化学類文化地理学野外演習で1995年（10月17～20日）、中川正講師・森本健弘技官および学生22名と、1997年（10月16～19日）森本健弘講師・松井圭介技官および学生17名との2回、調査を行った。

本研究をまとめるにあたり、1997年度文部省科研費「軽種馬牧場の立地と持続的農業に関する地域システム論的研究」(No.08458024) (代表：斉藤 功) および「持続的農村システムの形成における女性の役割に関する地理学的研究」(No.09680152) (代表：田林 明) の一部を使用させていただいた。

使用文献

- 専修大学経済学部古島ゼミナール (1981): 清里一観光化に及ぼした雑誌の影響.
- 山梨日日新聞社編 (1986): 『清里の父 ポール・ラッシュ伝』, ユニバース出版社, 493頁.
- 根津吉夫 (1988): 『女の清里開拓ものがたり』, 根津ふじの米寿記念, 20頁.
- 内田順文 (1987): 地名・場所・場所イメージ場所イメージの記号化に関する試論, 人文地理, 39-5, 1-15.
- 水島恵一 (1988): 『イメージ心理学』, 人間性心理学大系 9, 大日本図書, 354頁.
- 大山 正・秋田宗平 (1989): 『知覚工学』, 応用心理学講座 7, 福村出版, 288頁.
- 池 俊介・木下裕江 (1989): 山梨県清里高原における観光地域の形成, 静岡大教育学部研究報告 (人文・社会科学篇), 40, 39-63.
- 高根町編 (1989): 『高根町誌』, 上巻952頁, 下巻1, 064頁.
- 内田順文 (1989): 軽井沢における「高級避暑地・別荘地」のイメージ定着について, 地理評, 62A-7, 495-512.
- 野呂瀬秀幸 (1990): 観光開発と農山村の再編成一八ヶ岳南麓におけるペンション立地を中心として一, 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教科・領域教育専攻 社会系コース修士論文, 291頁.
- 近藤佳美 (1992): 「八ヶ岳南麓清里高原における観光地の形成」, 筑波大学比較文化学類, 卒業論文.
- 中川 健 (1994): 「山梨県清里における観光地イメージの形成」, 筑波大学比較文化学類, 卒業論文.
- JTB (1996): 『JTB ポケットガイド30 清里八ヶ岳高原』, 美松堂.
- JTB (1997): 『るるぶ情報版 '97~'98るるぶ清里蓼科白樺湖』, 美松堂.
- 小川健一・川村智子 (1997): 清里の場所イメージに関する考察, 筑波大学大学院地域研究研究科 地理調査法(1)調査報告書, 37頁.
- 中井智香子・中畑康樹・李 美加・袁 小華・周 美香 (1997): 土産品・土産屋を通して見た〈観光地・清里〉の現状について, 筑波大学地域研究科 地域調査法(1) 調査報告書, 73頁.

Images Have Made Kiyosato Highland into a Tourist Resort in Central Japan

Hiroshi SASAKI

Kiyosato Highland lies on the southern slope (1500-1000m high) of Yatsugatake volcano (2899m) in Yamanashi-ken in Central Japan. It had been a commonland of surrounding 11 settlements and a intensive colonization began in 1938 by 28 families with 62 persons from Tabayama-village in the western part of Tokyo. They had to move out there, owing to the construction of big water reservoir Ogochi-dam to keep the drinking water for Tokyo.

Within only less than 60 years there appeared a famous tourist resort. It was only 30 years ago that the first Minshuku (farm guesthouse: B & B) was established by a dairy farmer. The important factors to be a famous tourist resort of Kiyosato Highland are as follows:

1. In 1933 a railway was opened from Kobuchizawa on the Chuo trunkline to Kiyosato station, and mountain climbers and tourists visited to see azalea on the Highland nearby. A tourist resort Kiyosato was beginning to bud already before the Second World War in 1930's.

2. In the same year of first intensive colonization, American missionary Paul Rusch built Seisenryo building, which has been a core of christianity, dairy farming and cultural influences on this area, and he is now called "Father of Kiyosato". Seisenryo has been a strategic move to make a great tourist resort.
3. Dairy farming came to a deadlock because of occasional cold weather damage, and some dairy farmers built guesthouses, which brought good profit. Such image was built and announced very often on the magazines for young girls and ladies, as "fresh milk on the pasture of Kiyosato Highland".
4. After Minshuku (farm guesthouse) boom came pension boom. A Japanese pension is a family hostel of the grade between hotel and B & B. Most pensions are built clean and painted with white or yellow colors in the exotic moode, which attracted young girls and ladies by the image information in the magazines.
5. Almost all of pension owners were retired salaried men from Tokyo. A few pension building companies helped owners by instruction the know-how of keeping pensions.
6. Souvenir shops along the street in front of the railway station have put Kiyosato into the images of the fairy tales world, which were reported more often in the magazines for young girls and ladies, and attracted the more guests. The overnight in märchentlic pension was a dream of young ladies.
7. Pension boom has been going down by the traveling boom for abroad, and the destruction of bubble economy. In stead of pension, private museums as handicraft, modern pictures, glass wares, sculptures etc. are appearing, which are gradually making the new image of Kiyosato.
8. Such events as Paul Rusch Festival Yatsugatake County Fair'97, Festival of Azalea etc. attract many tourists. The former is held in the pasture of Seisenryo in the middle of October, and suddenly appear an American country farm festival on Kiyosato Highland.
9. The most important factor of the so quick development of Kiyosato Highland as a tourist resort can be found in "images", which have been made by journalism and the strategic move put by Seisenryo of Paul Rush in 1938.

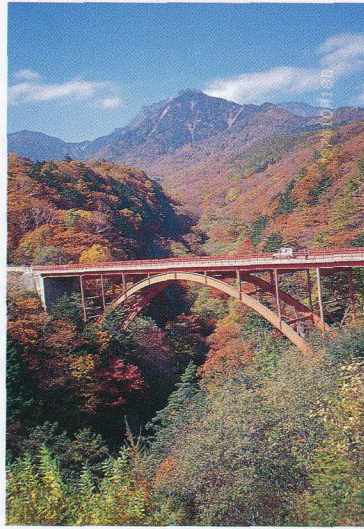


写真1

東沢大橋と八ヶ岳 (1997.10)
川俣川東沢の渓谷にかかる橋を南東から見たもので、大泉村にあり、八ヶ岳公園道路が通っており、橋の海拔高度は1466m.



写真2

美し森山 (1542m) より飯盛山 (1643m) を臨む (1997.10)
南東を見たもので、足元に清里高原富士屋ホテル、その上方は清里の森別荘地。右上の飯盛山麓のゴルフ場は長野県南牧村。



写真3

下念場の酪農家 (1995.10)
他所から購入した牧草がビニール袋につつまれて置いてあり、中で乳酸発酵したものを飼料にする。



写真 4

小須田牧場 (1995.10)

念場原の国道141号西側にあり、酪農から民宿へ転換し、収入は乗馬が主となっている。



写真 5

牧場民宿 ふじ乃屋 (1995.10)

東念場の清里小学校東側にあり、看板に牛乳風呂とあるように、酪農からの転換を物語っている。



写真 6

ペンション きらきら星
(1993.6)

東念場、ペンション村にあり、パステルカラーに塗りあげた木造。



写真7

ワンハッピーパーク (1997.10)
清里高原南端，国道141号西側にある土産物商店パーク，清里の入口にあつて，清里をイメージさせる。



写真8

清里駅前通り西端 (1993.6)
カラー舗道とメールヒェンティックな土産物産の建物が連らなっている。



写真9

ワンハッピープラザ (1995.10)
写真8の右側にある広場（プラザ）に立つ時計塔，メールヒェンティック清里のシンボル。



写真10

喫茶メルヘン (1995.10)

清里駅前通り東端にあるものを西から見たもので、清里ブームの火付け役としてヤングを魅了した。



写真11

ポール＝ラッシュ胸像 (1995.10)

清泉寮(左端)の前庭、牧場の北端に秋桜に囲まれ、台座にKEEP (Kiyosato Educational Experiment Project) のいわれが書いてある。

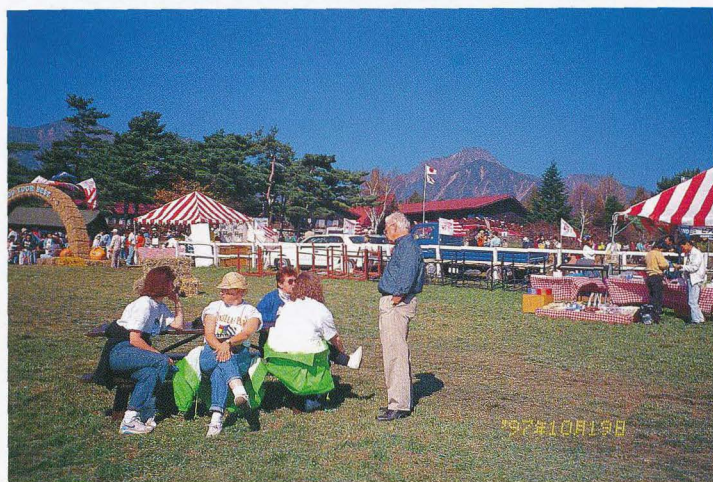


写真12

キープ祭 (1997.10)

八ヶ岳を背景に、赤い屋根の清泉寮、その手前の牧場で毎年繰り上げられる。全国のみならず、アメリカからも来訪し、突如アメリカのカンティフェアが出現する。